

一般社団法人  
建設コンサルタンツ協会 東北支部

# JCCA TOHOKU

明日への風、  
東北から



vol. **53**  
支部だより 2016.4

目 次

Vol.53

- 巻頭言「生活創造社会」の実現を目指して  
.....青森県県土整備部長 鈴木 潔 1
- 海外紀行  
「PIARC(世界道路会議)セミナーを通して見た世界の交通インフラ」  
.....株式会社建設技術研究所 野村 貢 2
- 技術シリーズ  
「北上川河口部における水門の詳細設計」  
.....東京コンサルタンツ株式会社 春名 佑一 8
- 女性技術者が思う建設コンサルタント  
「2年目なりたて社員の働き方」  
.....八千代エンジニアリング株式会社 原 菜花 11
- 名称地・行事  
「新庄市あれこれ」.....株式会社双葉建設コンサルタント 海藤 剛 13
- 社会貢献活動  
「わが社の境貢献活動 ～感謝を込めた小さな活動で地域との絆をつくる～」  
.....株式会社コサカ技研 久野由岐子 15
- 土木施設紹介  
「飯坂温泉。大正生まれの十綱橋」  
.....対外活動部会 広報委員会 荒木 孝広 17
- 現場見学会  
「河川・環境現場見学会に参加して」  
.....株式会社復建技術コンサルタント 高橋 展 18  
.....セントラルコンサルタント株式会社 秋山 真伍 19  
「構造及び道路専門委員会合同現場見学会に参加して」  
.....株式会社ニュージェック 山口 公平 山田 敦美 20
- 新規会員の紹介  
「～技術信頼で記憶される企業を目指して～」  
.....株式会社昭和土木設計 村上 功 22  
「世界に誇れる福島県いわき市を目指して」  
.....株式会社東日本建設コンサルタント 木町 元康 24
- 支部活動報告  
平成27年度 意見交換会について..... 25  
建コン東北支部・東日本大震災からの復興加速等に尽力した功績により東北地方整備局長から表彰... 27
- 平成27年度 RCCM資格試験..... 28
- 平成27年度 RCCM登録更新講習会..... 29
- 委員会紹介  
「構造専門委員会」.....技術部会 構造専門委員会 委員長 石井 一人 30
- 特集「講演会報告」..... 32
- 支部だより..... 33
- 会員の動向..... 37
- 東北支部 会員名簿..... 38
- 編集後記..... 広報委員 荒木 孝広 40



# 「生活創造社会」の実現を目指して

青森県 県土整備部長 鈴木 潔

## 1 はじめに

本県を取り巻く社会経済環境は、人口減少や少子高齢化の一層の進行、グローバル化の進展、アジアの経済成長と国際的な競争の激化、情報通信技術（ICT）の革新などにより大きく変化しています。また、平成23年3月に発生した東日本大震災も、本県の社会経済環境に大きな影響を及ぼしました。

こうした環境変化の中で、本県では、県民が安心して生きられる、そして輝いて生きられる「生活創造社会」の実現を目指し、「強みをとことん、課題をチャンスに」というコンセプトの下、「青森県基本計画 未来を変える挑戦」を平成26年度からスタートさせています。また、今年度は、この中の人口減少対策プロジェクトの取組を一層強化して、全庁横断的に展開することとしております。

県土整備部としましても、計画実現の一翼を担うため、これらに掲げられる政策・施策体系に基づき、災害に強い安全・安心な県土の整備や、産業・交通・雇用を支える基盤の整備に積極的に取り組んでいるところです。

ここでは、これらの取組の中から、主なものを紹介させていただきます。

## 2 「安全・安心な県土づくり」防災公共の推進

本県では、地震や津波、豪雨などの自然災害から命を守ることを最優先に、「孤立集落をつくらない」という視点と「逃げる」という発想を重視し、インフラ整備や危機管理機能の強化など、ハード・ソフト一体となった『防災公共』の取組を進めています。

ハード対策では、最適な避難場所と避難経路を確保するため、避難経路上の道路・土砂災害危険箇所などの対策を進め、ソフト対策では、ICTを活用し発災時でも十分に情報を入手・活用できる環境づくりに取り組んでいます。

## 3 「産業や生活を支える交通基盤整備」高規格幹線道路ネットワークの整備

本県は、本州最北端に位置し、三方を海に囲まれているうえ、冬期の気象状況が厳しく、県内全土が豪雪

地帯に指定されていることから、豪雪を含む大規模災害時の避難及び物流の経路を確保するため高規格道路の広域的なネットワークを構築することが極めて重要です。その意味で、国が整備を進めている上北自動車道、三陸沿岸道路、津軽自動車道の整備促進には、大きな期待を寄せているところであります。

また県でも、これらの高規格幹線道路と一体となって、下北半島地域における道路ネットワークの代替性・多重性を確保する下北半島縦貫道路(地域高規格道路)の整備に取り組んでいるところです。

## 4 「地域産業の成長・発展」情報化施工への取組

地域の安全・安心を支える建設産業の現状は、厳しい状況にあります。製造業等の他産業に比べて低い労働生産性や、少子高齢化による熟練者不足、建設現場の安全確保など多くの課題を抱え、早急な対応を求められています。また、近年のICTの進展、担い手三法の施行等、工事現場を取り巻く環境も大きく変化しています。

これらのことから、本県では、今年度、情報化施工の普及促進を図るための説明会・見学会などに取り組むこととしました。これをきっかけに、今後、建設生産プロセス全体の最適化、一人一人の生産性向上や賃金水準の向上などにつなげられるよう、ICTの活用を適確に展開していきたいと考えています。

## 5 おわりに

以上、本県の基本計画に基づく県土整備部の施策について、一部、紹介させていただきましたが、本県の社会資本はまだ不十分であり、更なるストックを必要としています。その一方で、老朽化する施設も多く抱えており、特に橋梁については、早くから、効果的・効率的な維持管理や長寿命化に取り組んできたところですが、今後は、更に長期的な視点から、施設全般を効率的に管理することが必要となります。

建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様におかれましては、これらの課題に対応するため、今後とも、その高度な知識と技術力をいかに発揮されるなど、一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。



## PIARC（世界道路会議）セミナーを通して見た世界の交通インフラ

株式会社建設技術研究所 野村 貢

### 1. はじめに

PIARC（世界道路協会）は、道路および道路交通分野において、国際間の協力の推進や発展の支援を目的とした非政府、非営利団体で、1909年に設立され、わが国は1910年（明治43年）に加盟して以来、さまざまな貢献を続けています。

PIARCでは、4年ごとに世界道路会議（世界大会）を開催しており、直近は2015年ソウル市（大韓民国）で開催されています。

私は、約10年間にわたり、道路防災の委員会を支援する立場を務めさせて頂いた結果、3回の世界道路会議（2007年パリ、2011年メキシコシティー、2015年ソウル）の他、4回の国際セミナーにも参加させて頂き、南米から北欧まで回らせて頂きました。

その他、ITA（世界トンネル会議）などで訪問したのものも含め、道路・交通技術者目線で見たいいくつかの国の交通模様や印象的なインフラを紹介させて頂きます。

### 2. ヨーロッパの都市公共交通

#### (1) 地下鉄やバス、LRT

都市内交通の混雑、環境保全の観点からヨーロッパで路面電車（LRT）やトロリーバスが多用されているのはよく知られているところです。

ブダペストの地下鉄は、電車方式としては世界でも古く、世界遺産にも認定されており、現在は4路線が運行、5路線目も計画が進められています。

街中の地上では、多両連結のLRTが主要な道路を走っており、トロリーバスとも要所で接続しています。乗り方も簡単、路線図さえ有れば、旅行者でも大概の目的地にLRTとバスで辿り着くことが可能です。

近年、わが国でもLRTの導入、従前の路面電車の高度化が進められています。道路空間に余裕の少ないわが国では4両以上の多両連結やオープンスペースの乗換え広場の配置はなかなか困難ですが、ヨーロッパ各都市も狭い道路空間が無いわけではなく、かなりの工夫をしつつ、何とせよLRTを走らせるという意気込みを感じます。また、ずっとLRTに馴染んで生



レトロなブダペスト地下鉄3号線



ブダペスト市内のトロリーバス（多両連結）



小規模停車場に停まるLRT（ブダペスト）

活している市民の感覚も大きく普及に寄与していると感じます。



ブダペスト市内のLRTとバスの大型結節点



まだまだ頑張るオスロのLRT



ルーマニアの中都市ヤシ市で頑張るLRT

### 3. 北欧インフラ探訪

#### (1) グレートベルトリンク、オレスンリンク

ここでは、テクニカルツアーや自主調査で探訪した主にデンマーク、ノルウェーのスーパーインフラを紹介

介しましょう。

デンマークは、首都のあるシュラン島と西側のフィン島をグレートベルトリンクで、東側スウェーデンのマルメ市をオレスンリンクで結んでいます。いずれも海底トンネルと長大橋梁の組合せで、グレートベルトリンクは1998年、オレスンリンクは2000年に供用開始しました。

グレートベルトリンクの延長は18km、最大橋梁であるイーストブリッジは全長6,790m、中央支間1,624mの明石海峡大橋（中央支間1,991m）に次ぐ規模です。

オレスンリンクは、全長16km、3.75kmの沈埋トンネルと中央支間490m、全長1,092mの斜張橋が主な構造物で、リンクを渡ればスウェーデン マルメ市です。



グレートベルトリンクの兆大吊橋



グレートベルトリンク4車線の明かり区間

#### (2) ノルウェー フィヨルド横断プロジェクト

ノルウェー西海岸は、フィヨルド地形で切り立った崖と、深く内陸まで入り込んだ入り江で形作られています。そのため、フィヨルド対岸への移動はフェリーに頼っていました。





オレスンリンク海底トンネルアプローチ



クリスチャンスン近郊E39の長大橋梁



オレスンリンク斜張橋



クリスチャンスン近郊E39の浮橋



クリスチャンスン市付近のフィヨルドフェリー



E39の浮橋ポンツーンとトラス構造

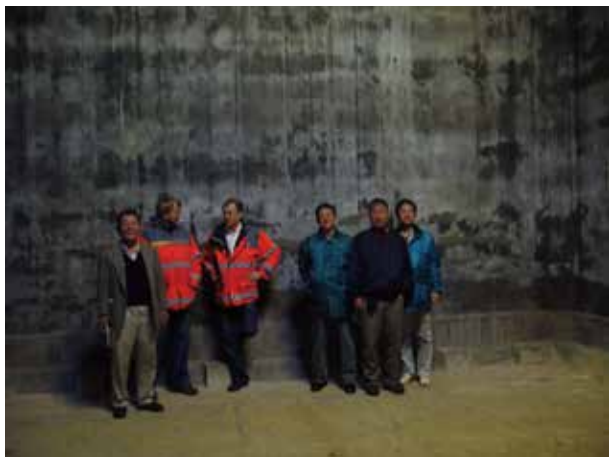
フィヨルド地域には地震が無い為、構造物のフォルムは非常に美しくスリムに作る事が可能です。周辺の景色と相まって非常に優れた道路景観を形作っていると思います。

この付近のフィヨルドは、干満の潮位差が非常に小さいことおよびフィヨルドの生物環境保護のため、この浮橋は橋台以外に接地しておらず、ポンツーンと呼

ばれるコンクリート製の函体を浮かべてその上にトラス上部を載せる構造となっています。

### (3) アトランティックオーシャンロード

アトランティックオーシャンロードは、クリスチャンスンからモルデの間の大西洋に面した複数の島々を結んで計画された路線で、世界最高のドライビング



E39の浮橋ポンツーン内部にて



直切り岩盤斜面とその補強（ロックボルト）



アトランティックロードの美しい橋梁



直切り岩盤に現れた褶曲構造

ロードに選ばれたことがあります。

また、2005年にはEngineering Feat of the Century（世紀の技術賞）も受賞しています。写真は最も有名な急勾配のカーブ橋梁です。

橋梁手前には、直切り岩盤斜面がPAの風よけとして使われています。この岩盤はもちろん、プレカンブリアンです。近づいてみると褶曲構造がはっきりと見えるように、機械研磨仕上げがなされています。日本では考えられない景観とデザインアイデアだと思います。

#### (4) ラウダールトンネル

世界最長の道路トンネルは、それまで長く世界一だったスイスのゴッダルト峠トンネル（16.4km）を大きく上回る24.5kmという長さで2000年に完成しました。

フィヨルドの中心都市ベルゲンと首都オスロを結ぶE16の山塊部分をショートカットすることにより、冬季を含む交通の安全を確保するための事業で、施工中から世界中で話題となっていました。供用中の管理体



世界最長道路トンネルの坑口

制を調査すべくノルウェー道路局のPIARC委員にお願いして中央監視室も含めて見学させていただきました。

トンネルは非常に堅硬な岩盤でしたので、多くの区間が吹付けコンクリートのみの簡易なライニングとなっています。対面通行の長大トンネルであるため、非常時には反転して手前側坑口に避難することも想定



して、坑内には大型車両がUターンできる大空洞が設置されています。



ラウダールトンネルの坑内（一般部）



反転のための坑内拡幅部



反転ポイントで反転指示を点灯したところ

見学はノルウェー道路局と同行でしたので、反転情報を点灯してもらった写真です。

トンネルの計画交通量は、1,500台/日以下と非常に少ないのですが、坑内には脱硝設備が設置されています。わが国の山岳道路トンネルではあまり見られな

い施設です。



排ガス脱硝設備坑の入り口



ラウダールトンネルの脱硝施設（吸着方式）

わが国の道路トンネル防災等級では、ラウダールトンネルの防災等級はAAとなり、24時間監視と給水栓や非常用ポンプ、水噴霧装置などの施設が必要になります。

交通量の非常に少ない長大トンネルでどのような監視体制をとっているのか興味がありましたので、中央監視室を見学させていただきました。



ラウダールトンネル中央監視盤





監視カメラ画像（中央監視室にて）



ガス濃度監視グラフ（中央監視室にて）

設置されているのはPCベースに計測機器やカメラ画像を取り込みするもので、シンプルながら必要な情

報は十分に得られるものとなっていました。

#### 4. おわりに

取り留めなく PIARC を中心にこれまで見学させて頂いたものや観察した都市空間アレンジ、インフラ施設について紹介してきました。

百聞は一見にしかず、見てみて聞いてみて、感じてみて分かることはたくさんあります。わが国では当たり前と思えることが過剰であったり、不足であったり、特に北欧の国々のインフラ管理者のインフラ工事、運用における環境負荷軽減の指向には感心するところが多くありました。

これからも機会をとらえて、見聞を広めていきたいと思えますし、若手の皆さんには是非、海外に出向く機会を得て頂きたいと思うところです。



フィヨルド地区にて筆者

## 北上川河口部における水門の詳細設計

東京コンサルタンツ株式会社 東日本技術センター 春名 佑一

### 1. 北上川河口部災害復旧事業について

東北地方太平洋沖地震で発生した大津波は、堤防の流出や水門等の河川構造物に被害を与えるとともに家々を呑み込み、北上川の沿川に甚大な被害を与えました。北上川を遡上した津波は河口から約2.0km上流にある月浜第一水門で約8mの高さとなり、河口から約50kmまで達したと推定されています。また、この大津波は堤防を越え、河口から約4.0km上流にある小学校では全校児童の7割が犠牲となりました。この悲劇は3.11東日本大震災でも衝撃的な被害として、深く心に刻まれています。

震災後、国土交通省東北地方整備局は平成23年度により北上川災害復旧事業に着手し、左右岸合わせて約18kmの堤防をはじめ、水門2基、樋門2基等の復旧事業が平成28年度完成を目指し進められています。



写真1. 北上川河口部災害復旧事業

(出典：国土交通省 東北地方整備局

北上川下流河川事務所 提供)

### 2. 北上川河口部災害復旧事業における当社の役割

当社では北上川災害復旧事業の一環として、河口から1.0km上流に位置する釜谷水門の詳細設計を実施し

ました。

震災前の釜谷水門は、支川富士川と北上川の合流施設として、洪水の逆流防止と河口からの潮止め機能を有した水門です。竣工は昭和3年であり、戦前の技術的に乏しい時期に選定されたバランスウェイトゲートと呼ばれる希少なゲートを有し、2004年には土木学会選奨土木遺産に認定された貴重な水門でした。震災前の構造は2門でしたが、津波で片側が倒壊・流失し、既存施設の現況復旧は不可能な状況でした。

当社は円滑な復旧工事を実施するため、新設釜谷水門の詳細設計と設計に必要な現地測量および地質調査を実施しました。



写真2. 震災前の釜谷水門



写真3. 釜谷水門の被災状況

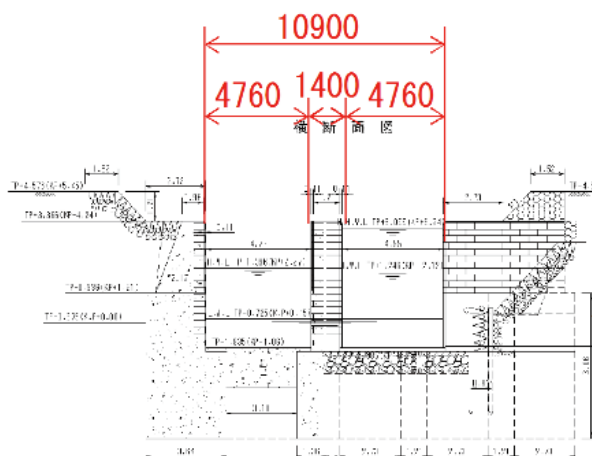


図1. 釜谷水門の正面図

### 3. 現況復旧に向けた設計の提案内容

この設計では、現況機能の早期復旧に向けて、下記事項について工夫しました。

- ① 水門本体構造と杭基礎の形式
- ② ゲート材料に新素材を採用
- ③ 景観に配慮した設計提案

本水門は基礎地盤が非常に軟弱であり、約70mもの長尺な杭基礎が必要となったため、水門本体の構造形式と基礎形式の選定が重要となりました。本体構造は床版と堰柱・門柱が一体となったU型形式とすることで安定性を確保し、杭形式は軟弱地盤における長尺な杭に適した場所打ちコンクリート杭とすることで、必要となる杭本数を低減させコスト縮減と工期短縮を図りました。

当初検討していた構造（T型構造）では、安定性に乏しく不経済になる事や、鋼管製の杭では当該地盤に適合しないなど、その傾向を掴むまでにかかなりの労力を要しました。

また、これらの検討過程においてゲート重量の削減が課題となりましたが、ゲート材料を一般的なステンレス鋼から新素材である二相ステンレス鋼とすることで、水門本体に作用する荷重が削減でき、コスト縮減も図ることができました。

一方、北上川河口部の河川施設は「南三陸・石巻海岸地区」における環境等の配慮が必要な地区であり、

釜谷水門については、『河川施設の機能・性能を確保した上で景観形成を目指す』という方針を基に、有識者を交えた景観・環境等の懇談会が実施されました。

本水門は門柱式引上げゲートや鉄筋コンクリート構造による操作室など津波に強い構造形式を基本としたため、操作室の重たいイメージや左右非対称となる階段室が修景上の課題となりました。

これらの課題については、縦長窓の設置や操作室前面および階段室を門柱よりセットバックするなど、有識者による指導を頂くことで、水門全体が矩形状にシンプルなイメージとなり、景観設計に配慮することができました。

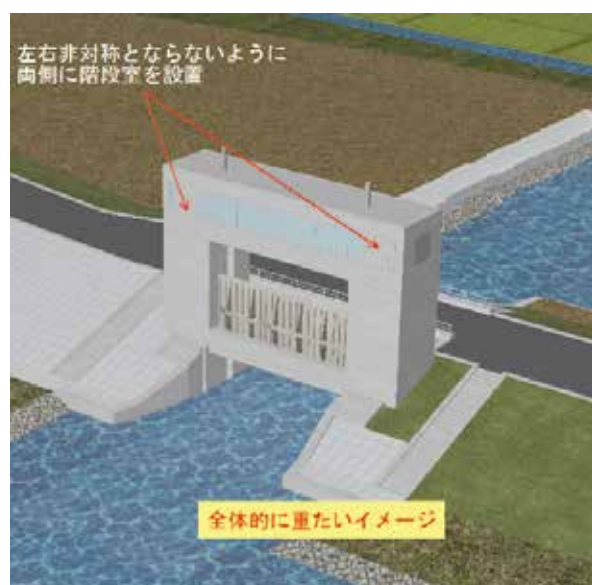


図2. 当初水門イメージ



図3. 景観検討後のイメージ



### 4. 調査段階での苦労話

構造物の詳細設計では、地質条件も重要となります。この業務では深さ 70m 程度のボーリング調査を 5 本実施しました。この土質調査は業務の中で最も苦労した作業であったと思います。ここでは地質調査担当の苦労話を記載します。

ボーリング作業は周辺の堤防が流出していたので、水上足場を設置して作業を行う事となりました。足場までは波浪が影響するなかをボートで向かい、水上の作業は冬場の強い海風にさらされ、体調を崩す者やインフルエンザにかかる者まで出てしまいました。また、当時はまだ余震が続いたので、震度 5 強ともなれば津波からの安全確保のため、すぐに避難をしなければなりませんでした。そのため、作業工程は大きくずれ込みましたが、調査担当者の強い使命感により無事に調査を終えることができました。



写真4. 水上でのボーリング調査の様子

### 5. 復旧・復興に携わった感想

釜谷水門は北上川河口から 1.0km の地点に位置します。本設計では先行して、新設水門の施工に必要な支川富士川の締切り堤を設計しました。この締切り堤は平成 26 年 1 月頃に完成し、新設水門の施工のみならず富士川の水を抜いて行われた行方不明者の捜索に役立ったと聞いています。

建設コンサルタントに従事する技術者として、このような大きな災害復旧に役立てたことは一生の記憶に残る事と感じています。今後は現場の安全と釜谷水門の完成を願うとともに、早期の復旧・復興を祈っています。

## 2年目なりたて社員の働き方

八千代エンジニアリング株式会社 原 菜花

### 1. 1年を振り返って

4月を迎え、ついに新入社員時代を終えました。この1年を振り返ってみると、「新入社員」という言葉を何度使ってきたか分かりません。正直、この言葉、この立場に甘えてきた自分がいます。今思えば、1人の技術者としての意識が低かった証拠です。たしかに、1年目の私が出来るとは少なく、1人前の技術者と言うには程遠い存在ではありますが、会社の外に出れば、八千代エンジニアリングの一社員として見られます。それにも関わらず、「新入社員だから分からない」という気持ちを持つ自分がいました。仕事にも多少慣れてきた今、それがいかに相手や会社に失礼であったか、さらには自分の成長の機会を何度潰してきたかと反省の時間に突入しています。これからしばらくは、若手社員と言われる立場になると思いますが、今度はこの言葉に甘えずとらわれず、上司に食らいついできたいと思います。

さて、反省も多い1年でしたが、毎日の仕事は非常に充実していました。私は現在、学生の頃からの夢が叶い、環境影響評価の業務に携わっています。環境影響評価の仕事は、設計業務などとは違い、成果がはっきりと形に残るものではありません。しかし、周辺住民の方の生活に直結する大変重要な仕事であり、常にやりがいを見失うことなく働くことができています。もちろん今でも、この仕事に就けて幸せだと思っています。

そしてこのように、私がやりがいを感じて働けているのは、仕事に忙殺されることがないよう、上司が仕事量を調節し、「早く帰れよー」と声をかけてくださるなど、様々な場面で配慮していただいているためだと言えます。労働環境の改善が叫ばれている昨今、意識される方が増え、一部かもしれませんが環境は変化してきているのではないかと思います。私が就職活動をしている頃もそうでしたが、この業界に興味を持って、長時間労働などがネックとなり、就職を断念する学生がいます。そういった学生にも、この業界の良い変化が伝わり、印象が少しでも変わっていけばと考えています。ただ、全体を変化させるためには、

さらなる改善が必須であり、私自身も仕事の効率等意識して働きたいと思います。

### 2. 女性技術者の立場から

今でもまだ男性の占める割合が高いコンサルタント業界ですが、日々の生活の中で不満に思うことはありません。汚く臭い現場にも、「女性には無理だろう」と言わず、連れて行ってくれます。そういった現場が大好きな私にとって、このように扱っていただけるのは非常にありがたいことです。

ただ、結婚、出産、子育て等々のライフイベントを迎えた時、やはり厳しい面が多いように思います。女性が働きやすい環境づくりはまだまだ終わりの見えない課題であり、私自身も将来、課題にぶつかることになると考えています。しかし、ただ悲観しているわけではありません。社内には、お子さんをもつ女性技術者の方がいらっしゃいます。そういった方をはじめ、社内の女性の方々とは年に1回、6月に開催される大規模な女子会で、入社してすぐに繋がりをもつことが出来ました。困ったときに相談できる方を知っているだけでも安心できます。また、私には、10人以上の女性の同期がいます。同期は、女性ならではの仕事の悩みや愚痴を言い合え、同じ目線でアドバイスをくれる仲間です。

もちろん最終的には、社内の産休・育休などの制度をより充実させる必要がありますが、制度を変えるには時間がかかります。理想論と思いますが、その時間



【同期女子会にて】  
(左の一番後ろにいるのが私です。)

を埋めるのが人とのつながりであり、それを大切にしていける社風を保つことが重要だと私は考えています。

### 3. 仕事と楽しみ

話は大きく変わって、最近の私の楽しみについてお話しさせていただきます。

社会人になってお酒の魅力にとりつかれました。両親共々お酒に弱く、その遺伝子を思いっきり受け継いでいる私は、学生の頃缶チューハイ1缶も飲み干せないほどでした。しかし、入社して3カ月ほど経ったある日、仕事終わりに上司と行ったお店で飲んだ日本酒に見事にはまりました。これをきっかけに今ではビール、日本酒、梅酒、ワイン等と色々楽しむことができるようになりました。特に、(ありきたりですが)現場調査などで1日歩き回った後に飲むビールは格別ですね。「社会人になったな～」という喜びも相まってさらに幸せになります。そんなお酒愛から、昨年、梅酒をつくり始めました。出来上がるまで、帰宅後毎日『美味しくなれよ～』と声をかけていました。そんな時間が幸せでしたが、残念ながら出来はあまり良くありませんでした。今年こそは！と今から気合十分です。

長々とお酒のことを述べてしまっていますが、お酒好きになれたことで、仕事の楽しみを1つ増やす事が出来ました。それは、出張先の地酒との出会いです。仕事終わりに入った地元の居酒屋や、お土産屋で買って、帰りの新幹線の中で飲む1杯が今の私の楽しみです。しかも仕事がハードであればあるほど美味しさが上昇していきます。1年目より2年目、2年目より3年目、大変な仕事がどんどん増えていくと思うと、不安にもなりますが、同時に、さらに美味しいものに出会えるかもと想像し、わくわくしています。ちなみに、平成28年4月現在のナンバーワンは出張先の青森で飲んだ“陸奥八仙”です。これを超えるお酒には、入

社何年目で出会えるか、今から非常に楽しみです。



【仕事納めの社内飲み会にて】  
(皆さんが出張先等で買って保管していたお酒。絶景。)

### 4. 最後に

最近、8年目の上司から伺った話が頭から離れません。

「自分(上司)が体調不良で休んだ時、日頃からこまめに他の社員に連絡をしていたため、業務に支障をきたさずに済んだ。それは良かったと思うが、自分がいなくても仕事が回ることに對して複雑な思いもなった。」と。

就職活動中によく、「どんな技術者になりたいか」という質問をされ、「あなたがいなければ仕事が進まない」と言われる技術者ですと答えていましたが、この回答は、単純過ぎていたようです。たしかに、自分がないからといって、業務をストップさせることはできません。ただやはり、上司が抱く葛藤と同様、「自分の代わりはいるんだ」と思いながら働きたいとも思いません。“自分の不在時でも業務を円滑にすすめること”と“代わりのいない自分を目指すこと”。この両者は矛盾しているのか、それとも両立は可能なのか。この1年は、その日の仕事で頭がいっぱいになり、他のことを考える時間がありませんでした。2年目に突入し余裕が出てきた(と思いたい)頭で、この疑問への答えを見つけていきたいと思えます。



## 新庄市あれこれ

～新庄市の始まり 篤姫と貢姫波瀾万丈の生涯～

株式会社双葉建設コンサルタント 海 藤 剛

### ■ はじめに

我がふるさと新庄市は、山形県の北東に位置する最上川中流域の新庄盆地に位置する都市であり、国内有数の豪雪地帯として知られております。人口は4万人弱で、「雪とまつりの新庄市」というキャッチフレーズのもとまちづくりを進めています。

当社では創業以来、地域と共に歩み、この厳しい自然環境とともに歩んで参りました。今回はこの地域における歴史にまつわる話をご紹介します。

### ■ 新庄市の始まり

天正時代（1573～1592）地元の豪族日野氏が、前領主の館「鶴沼城」に代わり現沼田町付近に土豪の小城「沼田城」をかまえたのが、後に城下町として発展する新庄市の歴史の始まりといわれます。

当時は戦国時代で、最上地方には秋田小野寺氏の鮭延城、山形最上氏の清水城と金山城、奥州細川氏の小国城、それぞれの支城となる楯や館と呼ばれる山城など70余りが反目し、庄内の大宝寺氏も加わって最上地方の領有をめぐる争奪戦が繰り広げられていました。

戦いを制したのは最上氏で、天正8年（1580年）～天正9年（1581年）以降最上地方は最上氏の領地となりました。山形県のほぼ全域を支配する大大名となった最上氏は、元和8年（1622年）跡目争い「最上騒動」で改易（領地没収、身分剥奪）。

領地は山形藩、庄内藩、新庄藩、上山藩の4つに分割され、新庄藩主には常陸国松岡（現茨城県高萩市）で領主を務めていた戸沢政盛（まさもり）が着任しました。

### ■ 新庄の発展と新庄まつりの起源

新庄市が最上地方の中心として発達を始めるのは、この頃からといわれています。この時より戸沢氏の藩政が始まります。江戸時代を通じて、戸沢氏は領国経営に熱心であり、多くの飢饉を乗り越えて石高4万石を実石6万石にまで増やすことに成功しました。宝暦6年（1756年）、前年の大凶作に喘いだ新庄藩は、

五代藩主正謙（まさのぶ）が領民に活気と希望を持たせると共に、豊作祈願をするため氏神である天満宮の祭典を行いました。これが今日まで続く新庄まつりの始まりであります。新庄まつりは山車行事が平成21年3月に重要無形民俗文化財に指定され、平成26年にはユネスコ無形文化遺産の候補として国連教育科学文化機関に一括提案されました。



### ■ 新庄藩戸沢家墓所瑞雲院（国指定史跡）

このように、江戸時代に250年余にわたり新庄藩を治めた戸沢家ですが、民からの信望も厚く、新庄藩戸沢家墓所の瑞雲院には歴代藩主のお墓が奉られており、観光客も数多く訪れております。当地では御霊屋（おたまや）と呼ばれ、造りは、単層宝形（ほうぎょう）造りで、大きさはそれぞれ違いますが、いずれも総檜（けやき）造りで、石場の上に土台を据え、丸柱を建て、柱間に厚い板をはめこんで壁としています。入口は観音開きの扉、床は石畳で板敷きはありません。屋根は全て茅葺きですが、桂嶽寺御廟所だ



けは近年木羽葺きに替えられました。

このさや堂の中には、歴代藩主とその正室（1基のみ側室）、家族の墓石が納まっています。



その内訳を見ると、総数 27 基で、藩主 11 名・正室 6 名・側室 1 名・その他 9 名となっています。

全国に多数ある近世大名の墓の中で、藩主とその正室や子ども、側室など一緒に葬られているのは極めて稀であり、また、各歴代藩主の墓が一堂にあることから、1700 年代の初期から後期に亘る約 100 年の間の建築様式の変化は、その時代時代の新庄藩政の姿を浮き彫りにするもので、歴史的に大変興味深いとされています。

### ■ 篤姫と貢姫

ここには、第 10 代戸沢正令（まさよし）夫人、貢姫（こうひめ）さまと呼ばれる薩摩藩と関連する方も葬られております。大河ドラマで有名な「篤姫」の大叔母にあたる方であります。皆様もご存知の通り、「篤姫」は天保 7 年（1836 年）島津家今和泉島津家に生まれ、長じて本家島津家 28 代、島津斉彬（なりあきら）の養女となり、将軍徳川家定の御台所として、大奥に入りました。一方、「貢姫」は、島津家 25 代、島津重豪 11 番目の姫として、文化 14 年（1817 年）薩摩藩江戸屋敷で生まれたそうです。「篤姫」よりも 19 歳年上ということになります。

当時、戸沢藩は 6 万 8 千石。島津 77 万石の大名の姫とのご縁談、その頃としては破格の縁談だったと思われる。「貢姫」の姉君は、11 代将軍徳川家斉の御台所、兄君は筑前黒田藩主、他の御兄妹は公卿、名だたる大名家へと縁付いておられました。いまでいう逆玉でしょうか？

正令の年齢 20 歳、貢姫 14 歳のお二人は雛祭りの内裏雛のようなお二方だったと伝えられており、当時島



津家から持参された雛祭りのお道具は、今なお新庄市歴史センターに保管され、3 月雛祭りの時期に飾られております。

「篤姫」も激動の幕末の動乱期に大奥をめぐる動向が大河ドラマになりましたが、「貢姫」も同じ時代に激動の人生を歩みます。正令は家督を継いで 4 年で病に倒れ、江戸屋敷でみまかり、治世わずか 4 年、31 歳の若さでした。貢姫はその後「桃令院」を名乗り、幕末から戊辰戦争という波乱の時代を実子である 11 代藩主正実（まさざね）とともに生き、明治 24 年、74 歳にてお亡くなりになりました。そして先述の御霊屋に夫正令こと「仁亮院殿」の墓碑のかたわら「桃令院」の墓が寄り添うように建っております。

九州、島津家より出て、激動の時代、夫に先立たれ幕末から明治へと、波瀾万丈の生涯を送られた「天璋院篤姫」「桃令院貢姫」お二方ともけなげに生きた女性であったと思います。



（現在も新庄まつりには大名行列が行われています。）

### ■ おわりに

今回改めてこの記事を書くにあたって我々新庄市民は 250 年の歴史の上で存在していることや市民が歴史を大事に守っていることを再認識させられました。今後ともこの地域の将来を担う一員として地域の発展に寄与していく所存です。

ぜひ近くにお寄りの際は、新庄の歴史に思いをはせてみてください。

参考：新庄ふるさと歴史センター資料



## わが社の社会貢献活動

～感謝を込めた小さな活動で地域との絆をつくる～

株式会社コサカ技研 久野 由岐子

当社の位置する八戸市は、太平洋を臨む青森県の南東部にあり、人口約24万人の都市です。岩手県から続く三陸リアス式海岸には、平成25年5月に創設された三陸復興国立公園があります。

そのほか、岩手県の沿岸を縦断して宮城県気仙沼市まで、南北約220km、東西約80km、その海岸線は約300kmにもおよぶ日本一広大なジオパークとしても認定されています。

また、日本一を誇るイカの水揚げ量や脂ののった前沖サバなどの漁業、北日本を代表する国際物流拠点としての商業、新産業都市に指定される臨海工業など、三つの顔を併せ持つ港湾都市でもあります。

当社では創業以来、地域と共に歩み、発展することを社是に謳い、微力ながら社会貢献活動が続けてきました。その活動の一端についてご紹介します。

### ■ 河川清掃ボランティア

「青森県ふるさとの水辺サポーター」として、総延長約1020mのゴミ拾い、草刈りを実施し、景観保護と環境保全に努めています。同業の方と協力して、今年で4年目の活動となります。



### ■ 大学等への講師派遣

実際に業務で使用している様々な機器の使い方を指導しながら、未来の土木を担う若者に建設事業の基本となる測定の魅力を伝える活動をしています。

来年度からは工業高校へも派遣予定のため、先輩技術者としての責任の重さを感じているところです。



### ■ 福祉施設夏祭りボランティア

当社から徒歩5分の介護施設では8月に夏祭りを開催します。平成17年のオープン以来、テントの設営、屋台料理作り等を毎年お手伝いし、利用者の方々と交流させていただいています。



## 社会貢献活動



この他にも様々な活動を行っていますが、地域に支えられて会社が存続していることに感謝し、会社として、また時には個人として、楽しみながら取り組んでいければと考えています。

更に、アイデアを出し合うこと、協力し合って生まれる達成感を共有すること、多種多様な方との交流を持つことなどは、業務における多様な視点の醸成にとって重要なことだと感じています。

全社員が地域貢献できることに喜びを見出し、長く活動していくことがわが社の大きな目標です。



### ■ 音楽会の運営

隣接する洗心美術館にて「輪島塗のヴァイオリンによる演奏会」が開催されました。

演奏者と観客がとても近いアットホームな雰囲気作りのために、業務で培ったノウハウを生かした会場設営、駐車場誘導、受付などの運営ボランティアをさせていただきました。

漆塗りのヴァイオリンの音色を楽しもうと音楽好きの市民の方が多数ご出席くださいました。その姿に私たちは達成感を感じ、また音色の美しさに感動いたしました。

市民フィルで活動している社員もあり、今後、共演の機会を夢見ています。



## 飯坂温泉、大正生まれの十綱橋

対外活動部会 広報委員会委員 荒木孝広



今宵も十綱橋に灯りが灯る。  
長い石畳の坂を浴衣姿の二人連れ、カランコロンと下駄の音が響く。

福島県を代表する飯坂温泉は、摺上川沿いに大小のホテルや旅館が建ち並び、松尾芭蕉をはじめ、正岡子規や与謝野晶子が訪れた歴史ある町です。

一際目に映るのが、共同浴場「鯖湖湯」です。木造作りの浴場から元気な子供らの声が聞こえました。



十綱橋  
飯坂温泉の玄関口である飯坂温泉駅、摺上川に架かる橋長54mの上路式鋼ブレストリブアーチ橋は1915年（大正4年）に竣工しました。

参考文献等

- ・「土木学会 選奨土木遺産」土木学会
- ・アプリ「ガイド東北」国土交通省東北地方整備局



## 河川・環境現場見学会に参加して

株式会社復建技術コンサルタント  
保全技術部 技術2課 高橋 展

### 1. はじめに

私は、平成27年10月29日に（一社）建設コンサルタンツ協会主催の河川・環境合同現場見学会に参加させていただきました。

私は今年の4月に入社し、河川や上下水を主とする部署に配属されました。今後、河川や上下水道の設計に携わっていく上で多くのことを学び、吸収したいと考え、今回の現場見学会へと臨みました。

### 2. 見学会の感想

#### (1)荒砥沢ダム

荒砥沢地区では、2008年に岩手・宮城内陸地震で発生した荒砥沢地滑りの状況と荒砥沢ダム堤体を見学させていただきました。崩落前後の様子と大規模な地滑りによって、荒砥沢ダム貯水池に約422万 $m^3$ もの土砂が流出したという話を聞き、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。また、地震の影響からダムの取水塔管理橋の橋桁にズレが生じたり、監査廊天井にクラックが発生するなど、堤体本体にも被害がありました。もし、地滑りの方向がダム湖の方向だとしたら、ダム自体にさらなる損傷や被害があったのではないかと感じました。

#### (2)栗駒山砂防ダム（湯浜地区）

湯浜地区では、岩手・宮城内陸地震への対応の1つである湯浜砂防堰堤の施工現場を見学させていただきました。地震の影響に伴う大規模な斜面崩落現場を目にし、砂防ダムが不安定土砂を迫川下流へと流出するのを防ぐ様子（施工段階）が見て取れました。また、単に土砂を堰き止めるだけでなく、河道に残った土砂を二次的な災害から防止するという面でも非常に重要な役割を担っていることが分かりました。さらに、実際に砂防ダムの施工現場を見学するのは初めてだった



湯浜地区：砂防ダム（施工状況）

ので、非常に貴重な経験となりました。

#### (3)化女沼ダム

化女沼ダムにおいては、化女沼周辺に生息する生き物の生態や環境面との関わりについてお話を聞かせていただきました。化女沼は農業用水の溜池ダムがあるだけでなく、豊かな生態系に恵まれた自然環境をもつ湖沼としての側面・治水ダムとしての側面・市民のレクリエーションと観光、環境教育の場としての側面・歴史や文化的な側面・ラムサール登録湿地としての側面など、多くの役割を担っている施設であることが分かりました。また、環境保護の面においても河川区域やダム周辺の清掃・美化活動も非常に大切なことだと感じました。私も小さい頃からよく化女沼に遊びに来ていたので、機会があれば化女沼周辺の清掃活動に参加したいと思います。



化女沼ダム：講演会の様子

### 3. おわりに

見学会後には、建設コンサルタンツ協会に所属する他社の皆さんとの懇親会も開催されました。普段は、同業者の方と接する機会が少ないため、多くの意見交換ができ、大変貴重な経験となりました。

私は今回の見学会を通して河川だけでなく、他分野の環境業務についても学ぶことができました。この経験をもとに、今後の業務に少しでも生かしていきたいと考えています。

最後に現場見学会を主催して頂いた（一社）建設コンサルタンツ協会の皆さま及び国土交通省の職員の皆さまに感謝申し上げます。



## 河川・環境合同現場見学会に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 秋山真伍

### 1. はじめに

平成27年10月29日、建設コンサルタンツ協会43名及び国土交通省職員の方々の参加によって河川・環境合同現場見学会が開催され、以下の3箇所を見学しました。

- ① 荒砥沢ダム
- ② 湯浜砂防堰堤
- ③ 化女沼ダム

### 2. 見学会の感想

#### ① 荒砥沢ダム

荒砥沢ダムは、岩手・宮城内陸地震により日本最大クラスの地すべりが発生し、上流側の滑落崖は最大落差148mを記録した場所になります。今回は、地震の概要やダム湖内に堆積した流入土砂に対する取り組みなどについて説明して頂きました。

地震による地すべりは、ダムの施設改修にまで影響を及ぼす程の規模であったことを知り、実際の崩壊箇所も、遠くから想定できる程の大きさであったため、とても驚きました。

今回は遠方からの見学でしたが、現在は市道も復旧し、滑落崖の上から地すべり箇所を望めるとのことであり、是非近くまで行き、間近で見学してみたいと思いました。



写真：荒砥沢ダム

#### ② 湯浜砂防堰堤

湯浜砂防堰堤は、河道閉塞に伴い直轄砂防災害関連緊急事業の対象となった場所です。施工現場までは急峻な地形であるため、工事用道路は最大30%の勾配があり、現場まで1時間近く歩きました。

また、近隣の堰堤はコンクリート構造を採用しているのに対して、鋼製セル構造を採用しており、普段は見学できないような、珍しい砂防堰堤を見学させて頂きました。

地形状況から工事用道路を急勾配にせざるを得ないことや、それに伴い採用する構造形式が変わることなど、

地形状況や施工条件に配慮して計画することの重要性を感じました。この体験を今後の業務に活かしていきたいと思います。



写真：湯浜砂防堰堤（右側は河道閉塞箇所）

#### ③ 化女沼ダム

最後に訪れたのは化女沼ダムです。化女沼ダムは平成20年にラムサール条約登録湿地になりました。資料館では、NPO法人の方より自然環境に関する様々な取り組みについて説明して頂きました。

化女沼ダム周辺には700種以上の植物や多くの種類の鳥類が生息しており、素晴らしい環境作りを行っていると感じました。

### 3. おわりに

私は本年度の新入社員であり、現場見学会への参加は初めてのため、少しでも学ぶ気持ちで参加させて頂きました。その中で、国土交通省職員、宮城県職員の方々に詳しく説明して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の現場見学会を通して、私は、様々な経験をすることができました。特に印象に残っていることは、湯浜砂防堰堤の工事用道路を一生懸命歩いたことです。工事用道路を歩き、とても疲れましたが、参加者の方々と絆や達成感を分かち合うことができました。

また、懇親会では同業他社の先輩方と交流を深めることができました。このような経験は日常の業務では中々できないことなので、私自身にとって、忘れられない1日になりました。来年以降も、積極的に参加していきたいです。

最後に、今回の現場見学会を企画して頂いた建設コンサルタンツ協会の方々に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

## 構造及び道路専門委員会合同現場見学会に参加して

株式会社ニュージェック 道路グループ 橋梁チーム 山口 公平  
道路チーム 山田 敦美

### 1. はじめに

平成27年10月28日(水)、(一社)建設コンサルタント協会東北支部主催の構造及び道路専門委員会合同現場見学会に参加した。

見学場所は、現在架設工事中の以下の現場2箇所である。また、見学会の後には、今回参加した建設コンサルタント各社との懇親会が開催された。

#### 【工事箇所】

- ① 工事名：鶴ヶ谷地区ボックスカルバート工事、  
場所：宮城県仙台市
- ② 工事名：国道45号 天王橋上部工復旧工事、  
場所：宮城県石巻市

### 2. 見学会の感想

#### (1) 仙台市鶴ヶ谷地区ボックスカルバート工事

工事は、都市計画道路宮沢根白石線工事の一環として行われる函渠工事であり、工事箇所は閑静な住宅街に位置している。見学会時は支保工を組み立て、頂版のコンクリートを打設している最中であった。(写真-1) 構造物の配筋を実際に見る機会は少なく、配筋は図面で見ているよりも想像以上に複雑であった。

(写真-2) また、施工延長230mに対し、高低差30mを越える(都)鶴ヶ谷国見線と国道4号を結ぶ路線であることから、縦断勾配が6.0%と急勾配になっている。施工中の函渠内に立ち入らせて頂いたが、机上



写真-1 函渠内部の施工状況



写真-2 函渠頂版の配筋状況



写真-3 集合写真(ボックスカルバート工事)

で考える勾配6.0%よりも現場を歩いた時に感じた勾配6.0%の方が急峻であるように感じた。

また、浦田工区には南光台中学校が隣接しており、地域利便性も重要ではあるが、沿道環境(騒音、排ガス等)・安全性を重視した設計となっている旨の説明を受けた。近年、経済性を重視し、いかにコストを削減するかということに論点を置きがちであるが、今回の現場のように経済性だけを重視するのではなく、地域住民との懇談・ワークショップ等で地元住民の意見を集約しながら、その地域にとって優先されるものを見つけ出していくことも、一つの解決方法として考え

られるのだと改めて認識することができた。机上の設計だけでなく、地域の状況・要望とコストを十分に把握し、設計に活かすことの大切さを学んだ。

### (2) 国道45号 天王橋上部工復旧工事

工事は、供用開始から55年経過した天王橋の架け替え工事の一環であり、今回の見学会はクレーンベント工法による鋼上部工の架設工事を見学させて頂いた。鋼橋の架設工事を実際に見学するのは今回が初めてであり、クレーンベントや鋼桁の大きさは想像以上で、非常に迫力があつた。(写真-4)

また、細部に目を向けてみると、ベントの設置箇所を盛土で整地し、搬入路に敷鉄板を並列させている等、設計段階ではなかなか目が届かない箇所を見ることができ、施工現場における作業スペースや留意すべき点を知る良い機会となった。また、設計段階から施工側の立場を考慮したうえで、施工計画を立案することが大事であると感じた。

### (3) 参加者懇親会

見学会後、今回の現場見学会に参加した建設コンサルタント各社の技術者との交流を深める場として、懇親会に参加した。今回参加した中には、若手も多く参加しており、幅広い層の懇親会となり、たくさんの貴重な意見を拝聴して学ぶ場となった。また、同年代の若手技術者と、コンサルタントならではの悩み、業務を通しての意見などを共有することができ、日々の仕



写真-4 クレーンベントによる架設状況



写真-5 集合写真(天王橋上部工復旧工事)

事に対するモチベーションの向上にも繋がる場となり、非常に有意義な時間を過ごすことができた。

### 3. おわりに

建設コンサルタントにとって、図面上だけで物事を考えるのではなく、いかに現場での施工、現場での完成形をイメージして設計・計画できるかが今後身につけていくうえで重要なスキルの一つだと思っている。今回の現場見学会のように、実際に図面を確認しながら現場を確認したことで、図面での表現の仕方が、実際に現場ではどうなっているか、施工・作業スペースは、図面の標記寸法と現場では、どの程度間隔に差異があるか等、想像する力が少し向上したのではないかと感じた。また、今回は道路専門委員会と構造専門委員会との合同現場見学会であり、両技術者の独自の目線から、様々な意見が飛び交っているのを聞き、まだまだ勉強不足であることを痛感したと同時に、非常に刺激になったと感じている。

最後に、現場を見学会する機会を設けて頂いた、建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様、ならびに現場関係者の皆様に御礼申し上げるとともに、今回の現場見学会で得た経験を今後の業務に活かし、建設コンサルタントとして、設計者として、成長していきたいと思っている。



## ～技術信頼で記憶される企業をめざして～

株式会社昭和土木設計 代表取締役 村上 功

### ■ 会社概要

当社は1980年事業開始以来、岩手県を拠点として建設コンサルタントおよびコンピュータシステム開発などを主体とした事業を展開してきました。

こうした中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、今も傷跡が癒えないなかで、元の生活を取り戻すための闘いが続いています。当社においても地元コンサルとしての使命を果たすため、多くの復興関連事業に携わっています。

早期に復興が完遂し、被災地に本来の生活が戻るとともに未来に向けた展望が開けることを切望しているところでございます。

### ■ 技術開発 ～3D空間計測と3D設計連携技術～

国土交通省がCIMを推進する中、当社は2014年からUAV（ドローン）を用いた3D空間計測と3D設計の連携技術の開発に取り組んできました。

以下に、この技術の概要を適用事例に基づき段階的に示します。

#### 【第1段階】

UAVで撮影した空中写真画像を標定点に基づき複数の画像を接続します。次に撮影位置およびカメラの傾きの概略空中定位を行い、写真画像の概略位置を定めます。空中定位（標定）された簡易オルソ画像を用い、画像相関によるマッチング処理・解析をおこない、地形・地物の3D点群データを生成します。

そして簡易オルソ画像に色彩を含んだ点群データを合成することによって、図1に示すような3D地形モデルを作成します。この地形モデルは、地形と同時に植生などの景観を構成する要素も色彩表現することが可能であるため、再現性に優れたリアルな景観モデルとしての特性を有します。

#### 【第2段階】

3D地形モデル上で橋梁計画を行うための、3D橋梁モデルの作成をおこないます。

モデル作成にあたっては、3D地形モデルから架橋地点の断面などの地形情報を抽出し、図2に示すような複数の橋梁モデルを作成します。

#### 【第3段階】

地形モデルと橋梁モデルを合成した3Dデータを用いて、架橋位置および橋梁の構造デザインの検討をおこないます。架橋位置の検討は、視点場を設定し、本事例における景観対象である滝の眺望性に留意しながら最適位置を決定します。また、構造デザイン検討では複数形式を選定し、それぞれモデリングと質感を与えるためのレンダリング作業をおこないます。



図1 3D地形モデル

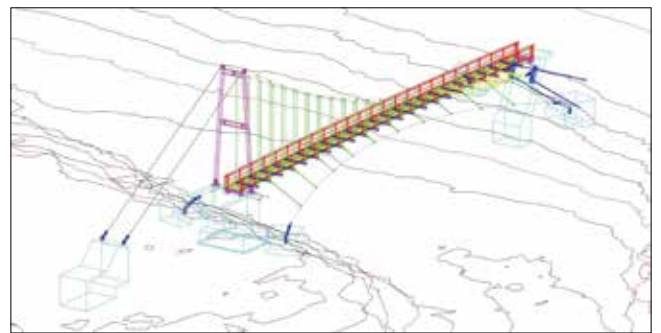


図2 3D橋梁モデル

こうした一連の作業によって、図3に示すような3次元の地形と構造の各モデルが連携した景観設計モデルができます。

この景観設計モデルは、視点場を自由に移動させてのシミュレーションを可能にするとともに、人の動線を設定したアニメーションを作成することができます。また、ヘッドマウントディスプレイによる仮想空間を自由に移動しながらのシミュレーションを体験することも可能です。

これらの3Dデータを用いて、架橋位置および構造デザインに関する住民説明会を行いました。説明会においては、利用者の視点場、動線を想定した3D動画を用意し、説明をおこないました。その結果、従来の紙図面等を用いた説明会に比べ、仮想現場を再現した場疑似体験によって理解度が高まり、関係者の合意形



図3 3D景観設計モデル

成が容易に形成することができました。

現在、建設分野において3Dモデルを基本としたCIMの導入が推進されています。当該技術が計画・設計段階の新たなコミュニケーションツールとして、また事業化、設計、施工、維持管理の効率化、高度化などの、イノベーションへと発展することを期待してやみません。

なお、本事例は2015年Auto Desk社が主催するcreative design award CIM部門においてグランプリを受賞しました。(https://autodesk-cda.jp/)



写真1 受賞式典の様子

## ■ 事業概要

### 【道路分野】

道路の計画・設計において、安全性、供用性、利便性、環境保全などを基本しながら、特に設計段階における安全性の確保・検証においては、3D走行シミュレーションを採り入れるなどの取組みをおこなっております。

### 【河川・砂防分野】

河川については、「多自然川づくり」に早くから取組みを進めてきました。岩手県内における実績を多数有しており、専門誌等にも取り上げられるなど高い評価をいただいております。

砂防においては、施設の老朽化にともなう補修設計において、躯体内部の劣化状況を高精度に把握するため比抵抗トモグラフィ探査を行うなどをおこなっております。

### 【橋梁分野】

橋梁の計画・設計および長寿命化計画策定など維持管理計画の最適化を図るための取組みをおこなっております。

### 【ICT分野】

技術開発の項で概要をご紹介したように、CIM、i-Constructionにつながる3次元設計に積極的に取り組んでおります。ほかに岩手県の除雪管理の情報化に関するシステムを構築しております。当該システム



写真2 主要地方道盛岡和賀線



写真3 元町川多自然川づくり

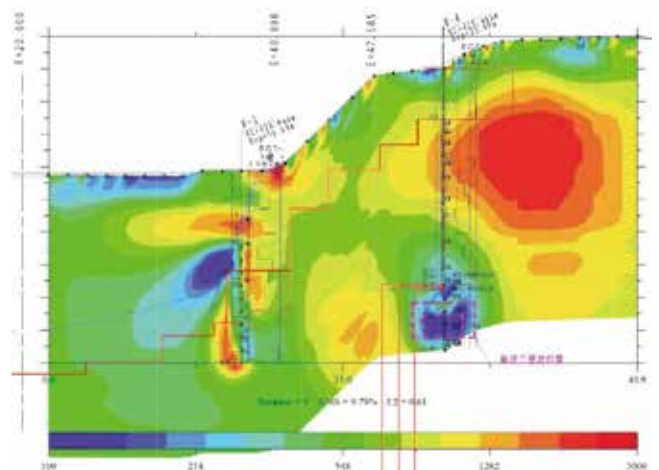


図4 比抵抗トモグラフィ実施例

は、Webサーバー型であり、除雪委託業者から除雪情報をWebを通して収集し、迅速かつ正確なコスト管理を実現するものです。

## 株式会社 昭和土木設計 (平成27年6月入会)

所在地：岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4丁目1-23 TEL：019-638-6834 FAX：019-638-6389

URL：http://www.showacd.co.jp



## 世界に誇れる福島県いわき市を目指して

株式会社東日本建設コンサルタント 代表取締役社長 木町元康

当社は、道路、橋梁、河川・砂防、海岸・港湾、上下水道、国土調査、用地、海洋調査等に係る企画調査測量、設計、施工管理、アセットマネジメント、土地物件補償調査を行う総合建設コンサルタントです。

昭和41年に「東日本測量株式会社」として福島県いわき市に創業、堅実な実績のもと、高度経済成長、バブル経済とその崩壊、低成長時代を生き抜き、本年9月26日に50年を迎えます。

これを機に、昨年4月に『株式会社東日本建設コンサルタント』に社名を変更、建設コンサルタンツ協会東北支部に入会させていただきました。

次の50年に向け、気分も新たに業務に邁進しているところです。

さて、先月11日、東日本大震災から丸5年を迎えました。振り返ると、被災地のインフラ整備企業である当社は当時、大きな余震や今でも続く原発災害、不安と恐怖のなか、全従業員が、自身や家族に対するのと同じ想いで使命感を持って、地元のインフラの復旧・復興に尽力してまいりました。

あれから脇目も振らず走り続けました。もう5年という実感ですが、いまだに復興途上でありますし、原発災害については、収束までさらに数十年以上かかると言われております。

これらの経験から、当社の業務は、まち・財産・命を守る誇り高いものであることを再認識するとともに建設コンサルタントとして、より一層、地域の課題に注意深く耳を傾け、その地域の皆様とともに考え、技術力に基づいた解決策を提案していく企業として成長し続けることが大事だと痛感いたしております。

これまでも当社はキャッチコピーのなかで「人と自然

が輝く街」、「なるほど!」を提案する」、「未来に誇れるコトモノ」と、インフラ整備を通して地域社会の安全と安心に貢献をすることを社是としておりましたが、それに加え、地域の将来、いわきの将来、福島の将来を捉え、「輝く未来をクリエイト」していく使命があるものと考えております。

当社全従業員が、東日本大震災という未曾有の大災害に真っ向から立ち向かった経験を後世に伝えるとともに、100年後の未来の子どもたちに世界に誇れる、福島県いわき市を創生する気概を持って、最先端の専門技術を武器に、業務に励んでまいり所存です。

これからの取り組みに対しまして、会員の皆様のご支援・ご協力を心からお願いいたします。



**株式会社東日本建設コンサルタント** (平成27年4月1日入会)

本社：〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5 TEL：0246-63-6063 FAX：0246-63-6752  
白河支店：〒961-0971 福島県白河市昭和町281 TEL：0248-22-3565 FAX：0248-22-3566  
相双支店：〒975-0003 福島県南相馬市原町区栄町三丁目41 TEL：0244-26-6663 FAX：0244-26-6660  
URL： <http://hnsv.co.jp>



## 平成27年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重要事業としております発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事会に諮り議題を決め、平成27年10月14日の秋田県建設部を始めに12月14日の岩手県県土整備部で終了しました。

### 秋田県建設部との意見交換会

日時 平成27年10月14日

出席者 (県) 柴田 建設部次長 他 4名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 20名



柴田 建設部次長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
3. 品質の確保・向上に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの活用実態について

### 山形県県土整備部との意見交換会

日時 平成27年10月28日

出席者 (県) 上坂 県土整備部長他 13名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 23名



上坂 県土整備部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
3. 品質の確保・向上に関する要望と提案

### 青森県県土整備部との意見交換会

日時 平成27年11月2日

出席者 (県) 清水 県土整備部長他 10名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 22名



清水 県土整備部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

### 宮城県土木部との意見交換会 (3団体合同)

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社)宮城県測量設計業協会

(一社)全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

日時 平成27年11月5日

出席者 (県) 後藤 土木部次長他 3名

(協会) 遠藤支部長他 3団体 32名



遠藤 支部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
3. 品質の確保・向上に関する要望と提案

## 支部活動報告

### 福島県土木部との意見交換会

日時 平成27年11月20日

出席者 (県) 鈴木 土木部次長他 8名

(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 23名



遠藤 支部長のご挨拶

議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
3. 品質の確保・向上に関する要望と提案
4. 測量・試験費関係予算の執行状況と

今後の見通し

### 東北地方整備局との意見交換会

日時 平成28年2月3日

出席者 (整備局) 柴田 技術調整管理官他 7名

(協会) 遠藤支部長他幹事 19名



柴田 技術調整管理官のご挨拶

議題 (協会)

1. 業務執行状況について
2. 担い手育成・確保のための環境整備
3. 技術力による選定
4. 品質の確保・向上
5. その他

### 岩手県県土整備部との意見交換会

日時 平成27年12月14日

出席者 (県) 蓮見 県土整備部長他 7名

(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 19名



蓮見 県土整備部長のご挨拶

議題 (協会)

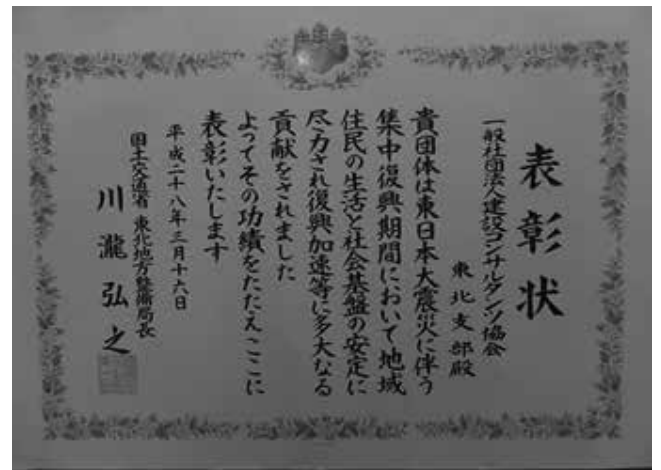
1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上

## 建コン東北支部・東日本大震災からの復興加速等に 尽力した功績により東北地方整備局長から表彰

平成 28 年 3 月 16 日 東北地方整備局大会議室において、東日本大震災による大災害からの復興加速等に関し、特に功績のあった団体として表彰され、遠藤支部長が出席しました。

この表彰は、大震災から 5 年間における東北支部の果たした役割が、復興加速等に多大な貢献をしてきたことが認められたものであり、これはひとえに会員皆様のご尽力によるものです。

ここに改めて感謝申し上げます。





## 平成27年度 RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM 資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し25年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又は RCCM 資格保有者と規定されました。

平成27年度の RCCM 資格試験は平成27年11月8日仙台会場（東北工業大学）で実施され、648名が受験され、172名が合格しました。

なお、平成28年度の RCCM 資格試験は、平成28年11月13日の予定です。

### 平成27年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成27年11月8日

合格発表 平成28年3月1日

部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
1. 河川、砂防及び海岸	182	55	30.2	209	53	25.4	252	75	29.8	6	4	66.7	93	37	39.8	101	22	21.8	118	33	28.0	101	26	25.7	1062	305	28.7
2. 港湾及び空港	46	6	13.0	24	3	12.5	36	9	25.0	13	1	7.7	10	5	50.0	2	0	0.0	10	4	40.0	9	2	20.0	150	30	20.0
3. 電力土木	9	3	33.3	3	0	0.0	7	1	14.3	0	0	0.0	2	0	0.0	3	1	33.3	0	0	0.0	1	0	20.0	25	5	20.0
4. 道 路	312	78	25.0	256	59	23.0	310	76	24.5	56	6	10.7	140	21	15.0	181	30	16.6	157	33	21.0	113	24	20.0	1525	327	21.4
5. 鉄 道	15	6	40.0	3	1	33.3	3	1	33.3	0	0	0.0	1	0	0.0	1	1	100.0	2	1	50.0	0	0	0.0	25	10	40.0
6. 上水道及び工業用水道	50	13	26.0	70	10	14.3	44	8	18.2	13	0	0.0	11	3	27.3	39	15	38.5	19	3	15.8	20	7	35.0	266	59	22.2
7. 下水道	67	14	20.9	54	8	14.8	67	15	22.4	20	5	25.0	7	4	57.1	32	9	28.1	26	8	30.8	29	7	24.1	302	70	23.2
8. 農業土木	49	16	32.7	16	6	37.5	66	22	33.3	17	2	11.8	33	8	24.2	35	14	40.0	31	7	22.6	18	4	22.2	265	79	29.8
9. 森林土木	20	2	10.0	19	6	31.6	25	8	32.0	0	0	0.0	2	0	0.0	23	1	4.3	8	3	37.5	14	2	14.3	111	22	19.8
10. 造 園	22	8	36.4	13	1	7.7	6	3	50.0	3	1	33.3	4	1	25.0	6	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	55	14	25.5
11. 都市計画及び地方計画	65	12	18.5	52	20	38.5	34	8	23.5	14	4	28.6	8	2	25.0	30	10	33.3	24	8	33.3	13	5	38.5	240	69	28.8
12. 地 質	24	5	20.8	36	11	30.6	27	6	22.2	2	0	0.0	6	1	16.7	13	3	23.1	15	4	26.7	19	2	10.5	142	32	22.5
13. 土質及び基礎	78	20	25.6	89	27	30.3	113	23	20.4	18	0	0.0	37	6	13.2	52	8	15.4	66	15	22.7	49	16	32.7	502	115	22.9
14. 鋼構造及びコンクリート	180	49	27.2	189	57	30.2	205	65	31.7	17	6	35.3	87	29	33.3	115	39	33.9	103	32	31.1	73	27	37.0	969	304	31.4
15. トンネル	33	14	42.4	19	10	52.6	25	14	56.0	0	0	0.0	6	3	50.0	8	2	25.0	7	4	57.1	10	3	30.0	108	50	46.3
16. 施工計画、施工設備及び積算	91	10	11.0	62	12	19.4	59	15	25.4	24	4	16.7	16	2	12.5	31	8	25.8	29	5	17.2	16	1	6.3	328	57	17.4
17. 建設環境	58	16	27.6	35	8	22.9	25	4	16.0	17	2	11.8	27	7	25.9	19	9	47.4	10	3	30.0	11	1	9.1	202	50	24.8
18. 機 械	10	3	30.0	4	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0	1	1	100.0	0	0	0.0	17	4	23.5
19. 水産土木	3	0	0.0	5	4	80.0	11	3	27.3	4	1	25.0	11	4	36.4	1	0	0.0	6	4	66.7	1	1	100.0	42	17	40.5
20. 電気・電子	65	16	24.6	36	9	25.0	13	3	23.1	2	0	0.0	11	4	36.4	6	2	33.3	5	1	20.0	7	1	14.3	145	36	24.8
21. 廃棄物	1	1	100.0	4	2	50.0	5	3	60.0	0	0	0.0	2	0	0.0	3	1	33.3	1	0	0.0	0	0	0.0	16	7	43.8
22. 建設情報	28	8	28.6	12	2	16.7	3	1	33.3	1	1	100.0	6	0	0.0	10	2	20.0	9	3	33.3	3	0	0.0	72	17	23.6
合 計	1,408	355	25.2	1,210	309	25.5	1,337	363	27.2	227	37	16.3	520	137	26.3	712	177	24.9	648	172	26.5	507	129	25.4	6,569	1,679	25.6

## 平成27年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっています。

平成27年度の登録更新講習会は、平成11、15、19、23年度の「RCCM 資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）では、平成27年10月2日午前・午後に分かれて実施され、579名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

### 午前の部

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| 1. 挨拶・講話          | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 遠藤 敏 雄   |
| 2. 技術課題と最近の動向     | 政策研究大学院大学政策研究センター 所長 森 地 茂    |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | (公財)日本道路交通情報センター 副理事長 藤 本 貴 也 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 |                               |

### 午後の部

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| 1. 挨拶・講話          | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 遠藤 敏 雄   |
| 2. 技術課題と最近の動向     | 政策研究大学院大学政策研究センター 所長 森 地 茂    |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | (公財)日本道路交通情報センター 副理事長 藤 本 貴 也 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 |                               |

### 平成27年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会 場	名	申 込 者 数	受 験 者 数	受 講 率	実 施 月 日	
札 幌	午前	187	187	100.0%	10月8日	
	午後	288	287	99.7%		
仙 台	午前	275	273	99.3%	10月2日	
	午後	307	306	99.7%		
東 京	第一	午前	293	291	99.3%	10月5日
		午後	285	286	100.4%	
	第二	午前	289	288	99.7%	11月30日
		午後	294	292	99.3%	
	第三	午前	132	131	99.2%	12月10日
		午後	185	182	98.4%	
新 潟	午前	172	172	100.0%	10月16日	
名 古 屋	第一	午前	252	250	99.2%	10月14日
		午後	253	253	100.0%	
	第二	午前	86	85	98.8%	12月2日
		午後	95	92	96.8%	
大 阪	第一	午前	208	208	100.0%	10月22日
		午後	288	288	100.0%	
	第二	午前	155	154	99.4%	11月20日
		午後	267	267	100.0%	
広 島	午前	229	230	100.4%	10月26日	
	午後	283	282	99.6%		
高 松	午前	207	208	100.5%	11月25日	
	午後	179	177	98.9%		
福 岡	第一	午前	286	288	100.7%	9月30日
		午後	289	287	99.3%	
	第二	午前	194	193	99.5%	10月20日
		午後	289	286	99.0%	
沖 縄	午前	196	195	99.5%	12月8日	
合 計		6,463	6,438	99.6%		

## 技術部会 構造専門委員会の紹介

構造専門委員長 石井 一人  
パシフィックコンサルタンツ株式会社

### 1 構造部会の概要

構造専門委員会は、支部技術委員会の目的である「会員に対する技術力向上、技術情報の提供、会員相互の技術交流」を図ることを基本として、橋梁および擁壁やボックスカルバート等の道路構造物全般の技術情報に関する活動を行っています。

構造部会は、以下の24名で構成されており、主に「技術講習会」「現場見学会」「橋梁・構造物に関する技術的な問合せに対する対応」及び「技術士受験模擬面接」年間を通じて活動しています。

委員長	石井 一人	パシフィックコンサルタンツ(株)
副委員長	向江 正夫	(株)東京建設コンサルタント
	佐藤 宗孝	セントラルコンサルタント(株)
委員	石橋 努	(株)復建技術コンサルタント
	青柳 健二	アジア航測(株)
	菅原 俊次	東京コンサルタンツ(株)
	鏡 幸二	大日本コンサルタント(株)
	三浦 俊史	(株)近代設計
	宮村 正樹	(株)福山コンサルタント
	麻生 隆徳	(株)千代田コンサルタント
	赤坂 好敬	(株)ニュージェック
	今西 修久	(株)エイト日本技術開発
	杉野 仁志	(株)ドーコン
	櫻井 寿樹	中央コンサルタンツ(株)
	堀内 深	八千代エンジニアリング(株)
	野本 淳也	(株)長大
	山本 晃弘	(株)総合技術コンサルタント
	佐藤 和憲	陸奥テックコンサルタント(株)
	西川 貴志	新日本技研(株)
	伊藤 信生	(株)庄内測量設計舎
	荒屋敷克志	いであ(株)
	北原 一彦	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	石原 晃一	日本工営(株)
矢口 雅博	(株)建設技術研究所	

### 2 平成27年度の活動状況

講習会は、最新技術の広報を目的とする「技術講習会」の開催と、国土交通省および地方自治体が主催する講習会に構造部会委員を講師として派遣しています。

#### ○技術講習会（道路専門委員会と合同開催）

平成27年12月4日 会場：ハーネル仙台  
支部会員他約100名参加

#### ・講習題目

「ラウンドアバウト等、道路に関する話題」

秋田大学大学院工学資源学研究所 浜岡教授  
「道路構造物の設計施工に関する話題」

東北地方整備局 道路部 遠藤建設専門官

#### ○講習会講師派遣

依頼件数12 機関18 講座13名派遣

現場見学会は、施工技術に直接携わる機会の少ないコンサルタントの技術者にとって重要な取り組みであると考え、毎年実施しています。

現場見学会は、支部会員が設計した構造物を対象としており、現場へ移動するバスの中では設計者による説明を受け、施工中の現場では、施工者による説明を受けるとしています。また、現場見学会終了後に参加者相互の親睦を兼ねて懇親会を行っています。



- 現場見学会（道路専門委員会と合同開催）  
平成 27 年 10 月 28 日  
支部会員 18 社 39 名参加（大型バス貸切）

- ・見学場所  
鶴ヶ谷地区大型ボックスカルバート工事  
(宮城県 仙台市)



現場見学会 集合写真（大型ボックスカルバート工事）

- 天王橋上部工復旧工事（鋼 5 径間連続箱桁橋）  
(宮城県 石巻市)



現場見学会 集合写真（天王橋上部工復旧工事）

建設コンサルタントの構造技術者の集団でもあるため、技術基準等の内容に関し、その考え方や判断についての技術的な内容に関する問合せを受けることも多く、構造専門委員会にて協議を行い回答を行っています。

その他に、講習用テキストの作成や意見交換会などを行っています。

- 道路構造物の技術的な問い合わせに関する回答
- 技術士模擬面接  
対象：技術士二次筆記試験合格者  
(鋼構造コンクリート・土質基礎部門)
- 東北地方整備局東北技術事務所  
基礎技術講習会テキスト更新
- 鋼橋に関する意見交換会  
(社団法人 日本橋梁建設協会)
- PC 橋に関する意見交換会  
(社団法人 プレストレストコンクリート建設業協会)

なお、今年度は、橋梁設計において使用されている「橋梁設計施工マニュアル [橋梁編]」（東北地方整備局）の一部改訂作業を実施しており、マニュアル本文の各編に対して、2～3名の委員で構成されるワーキンググループを設け、現行マニュアルの内容について審査及び更新に関する作業を東北地方整備局内のメンバーと共に審議を重ねています。整備局メンバーとの合同審議会は、経済性は当然のことになりますが、今以上に耐久性に配慮した長持ちする橋梁構造物を残すことを目標に、半日以上時間を要する内容の濃いものとなっています。

また、道路構造物に関する点検の義務化に伴い、今年度からは、技術者の点検メンテナンスに必要な技術力の向上のために全国で実施されている「道路橋メンテナンス技術講習」の東北地区の現場実習（今年度は、国道4号 名取大橋にて実施）についても東北地方整備局の協力を頂きながら実施しています。

「技術講習会」「現場見学会」は、平成 28 年度においても企画しており、皆様のご参加をお待ちしております。

今後とも構造専門委員会の活動へのご支援を宜しくお願いいたします。

- 以上 -

## 講演会報告

平成 27 年度の講演会は「東北の火山防災・減災を考える」をテーマとして、去る平成 27 年 11 月 13 日(金)に、ホテル法華クラブ仙台にて開催されました。

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部の遠藤敏雄支部長より、主催者代表として講演会のご挨拶を申し上げます。次に、来賓挨拶として国土交通省東北地方整備局企画部長の鈴木研司様よりご挨拶を頂戴いたしました。

講演会は、始めに「気象キャスターから見た自然災害への備え」～災害情報のミカタ～と題しまして、鈴木智恵様(気象予報士, 防災士)よりご講演を頂きました。引き続きまして、「動く大地と共に生きる」～蔵王ジオパーク構想の推進と防災について～と題しまして、加藤勝彦様(蔵王町環境政策課ジオパーク推進室長)よりご講演を頂きました。最後に「蔵王山」と題しまして、伴雅雄様(山形大学理学部地球環境学科教授)よりご講演を頂きました。

鈴木様からは、最近の自然災害についての傾向や、テレビ・ラジオからの情報の受け取り方、全国の市町村のハザードマップを検索・閲覧できる国土交通省ハザードマップポータルサイトをはじめ、気象庁のホームページなどから、地域の災害情報をいかに集め、身を守るかについてお話し頂きました。



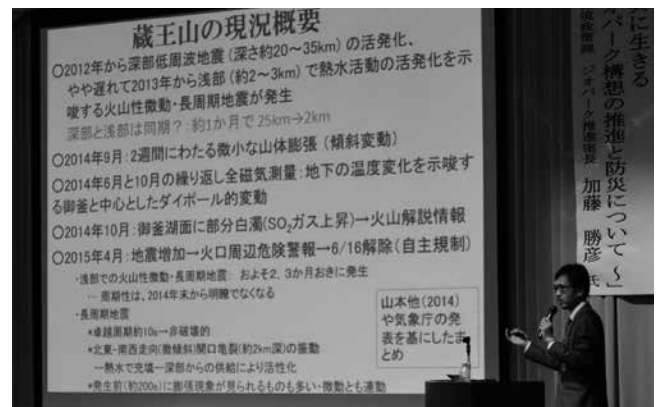
気象予報士 鈴木智恵様

加藤様からは、蔵王町が山形市や宮城県白石市などと協同して登録を目指している、「蔵王ジオパーク」について、蔵王連峰の特徴や噴火の歴史、伊達家とのかかわりなど歴史や文化、観光スポットやツアーなど、広範にわたって蔵王の魅力を随所に織り交ぜながらご説明頂きました。



蔵王町環境政策課ジオパーク推進室長 加藤勝彦様

皆様からは、火山性微動や火山性地震が起きるなど活動が活発化している蔵王山について、蔵王連峰が形成されていった過程や特徴、過去数百年間の噴火等の活動に関する調査について詳細かつわかりやすく説明を頂いたほか、今後の規制のあり方などについてご講演頂きました。



山形大学理学部 地球環境学科教授 伴雅雄様

今回も、時宜を得た有用な情報が提供出来たのではと考えております。今後もこのような講演会を開催してまいりますので、会員皆様の多数の参加をお願い申し上げます。

## [支部だより]

10月1日(木)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)J C C A TOHOKU の編集について  
(2)そ の 他

10月2日(金)

R C C M登録更新講習会

場 所／ホテルメトロポリタン仙台

主 催 本 部 受講者 579 名

10月6日(火)

技術部会 (道路・構造専門委員会)

場 所／支部会議室

10月6日(火)～7日(水)

東北地方整備局「道路行政(計画)研修」へ講師派遣

講 師／野田 英治 (八千代E株)

及川 宏之 (株ドーコン)

大塚 宣昭 (株福山C)

10月13日(火)

技術部会 (道路専門委員会)

場 所／支部会議室

10月14日(水)

秋田県との意見交換会

場 所／アキタパークホテル

秋田県 柴田 建設部次長 他 4名

協 会 遠藤支部長 他 20名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
- (3)品質の確保・向上に関する要望と提案
- (4)建設コンサルタントの活用実態について
- (5)そ の 他

10月16日(金)

品質セミナー「エラー防止」

場 所／パレス宮城野

主 催 本 部 受講者 126 名

10月19日(月)

宮城県建設センター「資格取得研修(RCCM)」へ講師派遣

講 師／佐藤 泰法 (株復建技術C)

10月28日(水)

山形県との意見交換会

場 所／あこや会館

山形県 上坂 県土整備部長他 13名

協 会 遠藤支部長他 23名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
- (3)品質の確保・向上に関する要望と提案
- (4)そ の 他

10月28日(水)

構造・道路専門委員会合同「現場見学会」

仙台市鶴ヶ谷地区ボックスカルバート工事(仙台市)

国道45号 天王橋上部工架設工事(東松島市)

主 催 技術部会(構造・道路専門委員会)

参加者 39名

10月28日(水)

福島県土木部職員専門研修「監督業務(設計)」へ講師派遣

講 師／菖蒲 幸男 (応用地質株)

今村 隆広 (株復建技術C)

細谷 健介 (新和設計株)

10月29日(木)

河川・環境専門委員会合同「現場見学会」

荒碓沢ダム、油浜砂防堰堤、化女沼ダム資料館

主 催 技術部会(河川・環境専門委員会)

参加者 43名

10月30日(金)

R C C M試験監督員説明会

場 所／支部会議室



## 支部だより

11月2日(月)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 清水 県土整備部長他 10名

協 会 遠藤支部長他 22名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

11月4日(水)

宮城県建設センター「土質の基礎」へ講師派遣

講 師／今村 隆広 (株復建技術C)

正岡 裕之 (応用地質株)

梶原 保志 (株福山C)

11月5日(木)

宮城県との意見交換会 (3団体合同)

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社) 宮城県測量設計業協会

(一社) 全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

場 所／KKRホテル仙台

宮城県 後藤 土木部次長他 3名

協 会 遠藤支部長他 3団体 32名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)更なる技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望
- (3)品質の確保・向上に関する要望と提案
- (4)そ の 他

11月6日(金)

総務部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成27年度 活動結果報告

(2)今後の予定確認

(3)そ の 他

11月8日(日)

平成27年度RCCM資格試験

場 所／東北工業大学

10:00～16:45

主 催 (社) 建設コンサルタンツ協会

(受験者数 仙台会場 648名)

11月10日(火)～13日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物」へ講師派遣

講 師／菖蒲 幸男 (応用地質株)

榊原 信夫 (川崎地質株)

北原 一彦 (株オリエンタルC)

山部 哲 (株建設技術研究所)

東瀬 康孝 (パシフィックC株)

松尾 新二郎 (日本工営株)

向江 正夫 (株東京建設C)

11月11日(水)

技術部会 (地盤専門委員会)

場 所／支部会議室

11月11日(水)

福島県土木部職員専門研修「主査クラス」へ講師派遣

講 師／小室 浩 (陸奥テックC株)

松尾 和俊 (日本工営株)

石倉 麻志 (株福山C)

11月12日(木)

独占禁止法研修会

場 所／建設産業会館

講 師／公益財団法人 公正取引協会

事務局次長 三宅 一秀 氏

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部,

(一社) 宮城県測量設計業協会,

(一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部,

(一社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部,

(一社) 東北測量設計協会, 東北地質調査業協会、

6団体の共催

出席者 220名 (建コン会員 90名)

11月13日(金)

平成 27 年度講演会  
 「東北の火山防災・減災を考える」  
 場 所／ホテル法華クラブ仙台  
 講 演／「気象キャスターから見た自然災害への備え」  
 ～災害情報のミカタ～  
 気象予報士・防災士 鈴木 智恵 氏  
 「動く大地と共に生きる」  
 ～蔵王ジオパーク構想の推進と防災について～  
 蔵王町環境政策課ジオパーク推進室長 加藤 勝彦 氏  
 「蔵 王 山」  
 山形大学 理学部 地球環境学科 教授 伴 雅雄 氏  
 主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部  
 後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、日  
 刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、  
 日刊建設通信新聞社、建設新聞社  
 協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、公益社団法  
 人日本技術士会東北支部他  
 参加者 220 名  
 (一般、官公庁、他 130 名、建コン会員 90 名)

11月18日(水)

情報部会  
 場 所／支部会議室  
 議 題／(1)活動報告のフォームについて  
 (2)各WG活動報告  
 (3)そ の 他

11月19日(木)～12月4日(金)

技術士模擬面接  
 主 催 技術部会 受講者 40 名

11月20日(金)

福島県との意見交換会  
 場 所／杉妻会館  
 福島県 鈴木 土木部次長他 8 名  
 協 会 遠藤支部長他 23 名  
 議 題／建コンからの提案議題  
 (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い  
 手の育成・確保のための環境整備  
 (2)更なる技術力重視による選定と発注の仕組  
 み等の導入に関する要望  
 (3)品質の確保・向上に関する要望と提案  
 (4)測量・試験費関係予算の執行状況と今後の  
 見通し  
 (5)その他(自由討議)

11月27日(金)

建コンボウリング大会  
 場 所／仙台プレイボウル 参加者 32 名  
 主 催 総務部会

11月30日(月)

C I Mの動向と関連情報講習会  
 場 所／パレス宮城野  
 主 催 本部 情報部会 ICT 委員会 ICT 普及専門委  
 員会  
 支部 情報部会 受講者 67 名

12月4日(金)

道路・構造専門委員会合同技術講習会  
 場 所／ハーネル仙台  
 主 催 技術部会 道路・構造専門委員会  
 受講者 105 名

12月10日(木)

ふくしま市町村支援機構「市町村建設事業担当職員研修」へ講師派遣  
 講 師／石井 一人 (パシフィック C(株))

12月11日(金)

第 6 回役員会  
 場 所／パレス宮城野  
 議 題／(1)平成 28 年度事業計画及び予算(案)について  
 (2)各委員会からの連絡事項  
 (3)そ の 他

12月11日(金)

講演会「建設コンサルタントを取り巻く最近の話題」  
 場 所／パレス宮城野  
 講 師 本部 前川副会長 参加者 117 名

12月11日(金)

支部忘年会  
 場 所／パレス宮城野  
 主 催 総務部会 出席者 135 名

## 支部だより

12月14日(月)

岩手県との意見交換会

場 所／エスポワールいわて

岩手県 蓮見 県土整備部長他 7名

協 会 遠藤支部長他 19名

議 題／建コンからの提案議題

(1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備

(2)技術力重視による選定

(3)品質の確保・向上

(4)そ の 他

12月15日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 27 年度各県との意見交換会報告

(2)平成 27 年度今後の予定について

(3)そ の 他

1月13日(水)

平成 27 年度環境専門委員会セミナー

場 所／TKP 仙台カンファレンスセンター ホールA

主 催 技術部会 環境専門委員会

受講者 63 名

1月13日(水)～14日(木)

宮城県土木部職員研修「土木基礎研修」へ講師派遣

講 師／岡田 篤 (大日本C株)

前田 修 (中央C株)

開米 浩久 (株復建技術C)

1月14日(木)

地域コンサルタント委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)経営実態調査について

(2)大学との連携について

(3)そ の 他

1月15日(金)

技術部会 (道路専門委員会)

場 所／支部会議室

1月20日(水)

土研新技術ショーケース 2016in 仙台

場 所／東京エレクトロンホール宮城

主 催 独立行政法人 土木研究所

共 催 (一社)建設コンサルタンツ協会 東北支部  
参加者 198 名

1月22日(金)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)J C C A TOHOKU の編集について

(2)平成 28 年度後援会について

2月3日(水)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／パレス宮城野

整備局 柴田 技術調整管理官 他7名

協 会 遠藤 支部長 他19名

議 題／建コンからの提案議題

(1)業務執行状況について

(2)担い手の育成・確保のための環境整備

(3)技術力による選定

(4)品質の確保・向上

(5)そ の 他

2月5日(金)

角田市役所平成 27 年度技術研修会

「発注者の為の安全管理」へ講師派遣

講 師／村田 嘉宏 (アジア航測株)

2月10日(水)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／3/10 開催「東日本大震災5年シンポジウム」

パネル展の打合せについて

2月12日(金)

第 14 回 高校生「橋梁模型」作品発表会

場 所／せんだいメディアテーク

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会

(当支部他5団体共催)

2月17日(水)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)情報部会事業報告 (案)、事業計画 (案)

(2)東北技術事務所との講演会共同開催について

(3)各WGの活動報告、他



2月25日(木)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1)本部地域コンサルタント委員会の報告  
 (2)本部・支部意見交換会について  
 講話：「技術管理業務に関する最近の話題」  
 東北地方整備局 企画部 技術調整管理官  
 柴田 吉勝 氏

3月16日(水)

東日本大震災からの復興加速に功績のあった団体を表彰  
 東北地方整備局は、東日本大震災による災害からの復興加速等に関し、特に功績のあった団体を表彰  
 当支部も「復興加速功労者」として表彰され遠藤支部長が表彰式に出席されました。  
 場 所／仙台合同庁舎B棟 12階大会議室

3月10日(木)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／パレス宮城野

本 部 長谷川会長 他 11名

支 部 遠藤支部長 他 28名

議 題／1. 平成28年度「要望と提案」(案)について  
 2. 平成28年度「白書」(第一次原稿)について  
 3. 支部からの提案  
 4. そ の 他

## [会員の動向]

### ◆ 新入会員の紹介

平成27年11月1日入会 (株)寒河江測量設計事務所  
 代表取締役 安孫子正芳  
 〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1  
 TEL 0237-86-5520 FAX 0237-86-5521

平成28年2月1日入会 (株)サトー技建  
 代表取締役 菅井 一男  
 〒984-0816 仙台市若林区河原町一丁目6-1  
 TEL 022-262-3535 FAX 022-266-7271

### ◆ 会員の異動 (次の方が就任されました)

平成27年11月1日 (株)帝国コンサルタント 仙台支店  
 支店長 中西 宏一

平成27年12月15日 (株)キタック 仙台事務所  
 所 長 相田 義徳

平成28年2月1日 日本工営(株) 仙台支店  
 支店長 長崎 均

### ◆ 名称変更

平成27年12月1日 (株)協和コンサルタンツ 東北支社  
 (旧 (株)協和コンサルタンツ 東北支店)

平成28年4月1日 (株)コウキコンサルタント  
 (旧 (株)興起測量設計事務所)

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員4月1日現在 100社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺3-13-10	022-295-5768
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)アスコ大東	東北支店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北支店	〒981-3107 仙台市泉区本田町13-31	022-776-3151
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応用地質(株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタント	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平エンジニアリング	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタント(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタック	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒960-8043 福島県福島市中町4-20	024-524-2381
(株)協和コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)クレアリア	東北支店	〒980-0023 仙台市青葉区北目町2-22	022-726-5225
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-265-0666
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)建設技術センター	仙台営業所	〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-15-23	022-302-1195
(株)コウキコンサルタント	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタント	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サトー技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒980-0022 仙台市青葉区本町2-1-1	022-261-9052
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新日本技研(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-212-4870
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
ジェイアール東日本コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株)創研コンサルタント	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)総合技術コンサルタント	東北支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株)高島テクノロジーセンター	東北支店	〒980-6117 仙台市青葉区中央1-3-1	022-721-5401
(株)田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
大日コンサルタント(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株)ダイヤコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株)地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-2-1	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0037 仙台市若林区蒲町字東50-2	022-766-9121
(株)中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3131 仙台市泉区中央2-16-12	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-18-21	022-722-2545
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタント(株)	東北営業所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
中部復建(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-5-18	022-274-8190
(株)長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株)千代田コンサルタント	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-8	022-214-6261
(株)帝国コンサルタント	仙台支店	〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央5-2-15	022-391-0870
(株)テクノ長谷	本社	〒980-0824 仙台市青葉区支倉2-10	022-222-6457
(株)東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株)東建工営	本社	〒981-1227 名取市社せきのした1-2-7	022-383-9811
(株)トーニチコンサルタント	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株)ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株)東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株)東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株)日水コン	東北支所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株)日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-1-7	022-713-6657
(株)日本港湾コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株)ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	本社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-65	022-713-7277
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株)パスコ	東北事業部	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-2-11	022-299-9511
(株)東日本建設コンサルタント	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株)福田水文センター	東北営業所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-6-10	022-224-1417
(株)福山コンサルタント	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株)双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株)復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株)復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタント(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株)横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18	022-262-1493



## 編集後記

暖冬少雪の冬から春へと季節は巡ってきました。

会員の皆様へ本誌が届く頃は、入学式や入社式そして新人研修等フレッシュ1年生のはつらつとした姿をみることが出来る事と思います。

東日本大震災から5年が経過しました。

被災地の一刻も早い復旧・復興を目指し道路・河川・海岸堤防や防潮堤の整備、防災集団移転先となる住宅地の造成などの社会基盤の整備に取り組んできました。しかし新聞社による全国世論調査によれば「復興は順調に進んでいない」72%と現実には厳しい評価です。引き続き復興に邁進していかなければなりません。

さて、明るい話題として3月26日北海道新幹線、新青森～新函館北斗の約149kmが開通しました。これに伴いレトロな寝台特急「北斗星」や「カシオペア」が引退する事はとても悲しいことですが、北海道が更に身近に感じられ、物流や観光そして文化の交流が活発になっていくことでしょう。

また、今年オリンピックイヤーですね。8月5日よりリオデジャネイロオリンピックが開催されますが、どんな感動やドラマを魅せてくれるのでしょうか。さらにその興奮を平成32年東京オリンピックへ引き継いでくれるのでしょうか。

最後に、今年で26回を数えるEE東北は次の通り開催されます。昨年は会員の積極的な参加もあって出展技術や来場者数は過去最多を記録しました。またUAVの競技会が注目を集めました。

EE東北 '16 広げよう新技術 つなげよう未来へ

日時：平成28年6月1日（水）10：00～16：30

2日（木）9：30～16：00

場所：夢メッセみやぎ

最後に、7年間在席した広報委員会を辞することになりました。

この場をお借りして、原稿執筆を快くお引き受け下さった皆様へ感謝申し上げます。

（平成28年3月 荒木 孝広 記）

## JCCA TOHOKU Vol.53

発行	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820
編集	広報委員長 松川 秀敏 副委員長 菊池 透 副委員長 石塚 三雄 広報委員 大友 正樹 広報委員 荒木 孝広 〃 田子 洋一 〃 佐藤 雅樹 〃 高橋 伸彰 〃 高野 浩二 〃 目々澤 英幸 〃 山田 勝 〃 海藤 剛 〃 高橋 力
事務局	新野 俊晴・小川 みゆき
印刷	ハリウ コミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

#### ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。